

- 2 近代化の主役に焦点
- 3 トンネルに丸太?!
- 4 きょう発走 車椅子マラソン

横須賀日日新聞 第45号  
2015年12月6日

## あなたが地域の主人公 8

テーマ：若者に寄り添う人々  
(悩みを共有し共に歩む)

## あなたが地域の主人公 8

横須賀を舞台にした「きつときみに届くと信じて」(金の星社)という本を読んだ。著者の吉富多美さんは苦悩する若者に寄り添い、温かい目で彼らを描いてきた作家だ。いじめに悩む中学生の苦悩と同時に未来への希望も伝わって来た。

### 若者に寄り添う人々

吉富さんとは3年前、横須賀で「朗読劇ハッピーバースデー」を上演する際に一緒に働いた。吉富さん原作の児童虐待といじめをテーマにした劇で、願いを共有する横須賀の保育園や子育て支援NPO、行政の方々等と100人実行委員会を設け、一緒に作り上げた。

### 悩みを共有し共に歩む

声優さんの声の力、会場のすすり泣き、そして重いテーマにもかかわらず、明るい表情で会場を後にする来場者の姿が印象的だった。上演後、YMCAでは賛同者の方々と細々とであるが、児童養護施設の支援

「しらかば子どもの家」(長瀬3丁目)に派遣するプロジェクトだ。大学生が子どもたちのお兄さんお姉さんのように一緒に遊ぶ。シンプルな企画だが、3年間で延べ300人近い学生が参

を続けてきた。学生たちを「しらかば子どもの家」(長瀬3丁目)に派遣するプロジェクトだ。大学生が子どもたちのお兄さんお姉さんのように一緒に遊ぶ。シンプルな企画だが、3年間で延べ300人近い学生が参



被災地と横須賀の学生による「夢バンド」演奏会  
=2014年12月28日、ショッパーズプラザ横須賀

加してくれた。子どもたちも楽しみに待っているし、大学生にとっても学びの場となる。

今、子どもたち・若者の置かれている状況は厳しい。いじめ、虐待、不登校、引きこもり、発達障がい、

貧困…。どれをとっても根深く解決は難しい。横須賀・鎌倉エリアで不登校、引きこもりなどの子ども・若者を支援している

七里ヶ丘子ども若者支援研究所の滝田衛さんにお話を聞いた。「厳しい環境に置かれた若者に一番必要なものはなんでしょう」

滝田さんは「親や友人、社会になじめない子どもたちは孤立を深めます。そこには彼らの悩みを共有し寄り添う大人の存在が必要です。『それでいいよ。わかっただよ』と共感し気づきを伝えてあげることが必要なんです」と語られた。

前述の「きつときみに届くと信じて」

(横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋 亮)